

謎解きゲームを応用した普及イベント実施について

○井川阿久里
(横浜市立野毛山動物園)

動物園での教育普及活動は来園者に動物へ興味をもって理解を深めていく、重要な役割を果たす。野毛山動物園では、来園者への教育普及として毎日開催の動物ガイドや、事前申込みのガイドツアー・飼育体験を行っているが、参加できる人数や実施時間に制約がある。より多くの来園者に教育普及を行える方法としてワークシートと園内看板を活用したイベントを企画・実施したので報告する。

ワークシートのような配付型の教育普及ツールは、いつでも、だれでも利用することができ、多くの人数に対応できる反面、実際にどの程度、活用されているのかといった利用実態の把握が難しい。そこで、ワークシートを有料とし、金額から参加人数を把握できるようにした。ワークシートの内容は、園内看板をヒントに問題を解き、ゴールをめざす方式をとり、ゴール時に職員が対応することで、参加者がどの程度問題を完答したかも把握できるようにした。

実施期間は3月から4月の春期27日と、6月、7月の夏期25日間、参加者は合計1239組、参加者の内ゴールした人数の割合は春期が59.3%、夏期が55.1%だった。ゴールした参加者の感想はおおむね良好で、家族連れを中心に、通常当園のイベントではあまり参加しない10代後半・20代の参加者も多数みられた。

ワークシートの使用により、時間や人数の制限なく多くの来園者の参加が可能となった。また、実施方法や内容を工夫したことで、6割の参加者が最後まで取り組むことができた。今後は、参加者の感想や動向などを参考に実施方法や内容改善を行って、より教育効果の高いイベントとしての実施を目指したい。